



## 10月の学校朝会 キーワードは「考える」

今月は学校教育目標の「～自分(たち)で気づき、考え、行動できる子供の育成～」の特に「考える」をキーワードにお話をしました。

今日は、2つの「考える」をお話したいと思います。

1つ目は、「直前で考える」ということです。行動を起こす直前に、相手はどう思うか、これをするとなにかがけがはしないか、心は傷つかないか、「考えて」ほしいということです。その時の感情のまま、考えないまま行動してしまったことで、大切な友達を傷つけてしまった、物を壊してしまった、ということがあっています。そうすると、自分だけでなくお家の方々や周りの人も巻き込んで辛いことになってしまいます。そうなる前に立ち止まって考え、周りの人も物も大切にできるみんなであってほしいと思います。そうすると、もっともっと「笑顔で繋がる若葉小」になっていくと思います。

2つ目は、「三人のレンガ職人」という話をもとに「考える」をお話します。

中世のとあるヨーロッパの町。旅人が歩いていると汗をダラダラと流しながら重たいレンガを積んでいるレンガ職人に出会いました。そこで、旅人は「何をしていますのですか？」と尋ねました。

一人目は「親方の命令でレンガを積んでいるんだよ。暑くて大変だから懲り懲りだよ」と話します。旅人は慰めの言葉を言って、その場を離れました。

旅人が先に歩いていくと、二人目の職人に出会いました。同じように「何をしていますのですか？」と尋ねると、「レンガを積んで壁を作っているのさ。この仕事は大変だけど金がいいからやっているのさ。」と答えました。旅人は励ましの言葉を言って、その場を離れました。

旅人がさらに歩いていくと、三人目の職人に出会いました。同じように尋ねると、「レンガを積んで後世にも残る大聖堂を作っているんだ。こんな仕事につけて光栄だよ。」と答えました。旅人はいたわりの言葉をかけると、「とんでもない、ここで多くの人が祝福を受け、悲しみから解放されるんだ。素晴らしいだろう。」と目を輝かせて誇らしげに答えました。旅人は感謝の言葉を残してその場を離れました。

三人のレンガ職人は、それぞれ「レンガを積んでいるという仕事」は同じです。仕事の内容も同じなので、賃金もほとんど変わりません。しかし、この三人の取り組む姿勢は、全く違います。一人目は「やらされている」という気持ちでしています。二人目は、レンガ職人としてのこだわりはなさそうです。三人目は、「未来のために仕事をしている」という希望を持っているのです。もしも、みんなが家を建てるとしたら、三人のうちの誰に頼みたいですか。

学校での授業や行事、ボランティアや当番活動など、「やらされている」という気持ちが見え隠れしていたり、興味関心が長続きしなかったりしていませんか。何のためにするのかという「意味を考えて」行動することで、全く違うものになります。

今日は、二つの「考える」いうお話をしました。考えることで、「行動」が変わる。すると、「結果」が変わり、「自分」が変わることができます。

実は、「三人のレンガ職人」の話には続きがあります。三人の10年後です。一人目は10年前と同じように文句を言いながらレンガを積んでいました。二人目はレンガ積みよりもお金が良い仕事につきましたが、危険を伴う教会の屋根の上での仕事でした。三人目は、建築現場の管理者として仕事を任されるようになり、後に出来上がった大聖堂には、彼の名前が付けられたということです。ご家庭で、話題にしていただけると嬉しいです。